

## 「今後の県立高校に関する意見交換会（第2回）」記録要旨【気仙ブロック】

平成 27 年 10 月 26 日（月）

大船渡高校 大会議室

### 【住田町 参加者】

- ・ 望ましい学校規模を 4 から 6 学級としているが、今後、子供が減っていく中で望ましい学校規模にこだわる理由は何か。
- ・ 再編計画案を年内に示した後、年度内に再編計画を策定したいという意向のようであるが、案公表後のパブリックコメントの期間が短いのではないかと。1 年くらい時間をかけて丁寧に説明してから再編計画を出しても良いのではないかと。

### 【県教委】

- ・ 望ましい学級規模を 4 から 6 学級としている理由は、例えば理科や社会等の教科で各科目の専門教員の配置が可能となり、生徒の能力や個性を最大限伸ばす教育課程の編成が可能となるためである。少子化は進行していくが、ある程度の進学に対応した体制を維持していくためには、望ましい学校規模は必要と考えている。
- ・ 再編計画案公表後のパブリックコメントは 1 ヶ月以上やることとしており、これに併せて、地域への説明会を行うとともに、地域の代表からなる地域検討会議も開催する予定である。また、要望に応じて出前説明会の開催も考えているところである。年度内の計画策定を目途としているが、丁寧に意見を伺ったうえで成案化していきたいと考えている。平成 28 年度の募集定員は決まっているので、年度内に再編計画ができたとしても実際の再編は平成 29 年度以降となる見込みである。

### 【住田町 参加者】

- ・ 県立高校は県が小中学校は各市町村が管轄しているわけだが、中学校と高校の連携を強めるためにも 6・3・3 制の見直しが必要ではないかと考えている。既に設置している連携型中高一貫教育校を沿岸部に取り入れること等を考えてもよいのではないかと。高校再編を進めるにあたり、もう少し創意工夫をする必要があると感じている。

### 【県教委】

- ・ 中高連携については、高校の教員が中学校で指導することはあるが、教員免許の関係等から中学校の教員が高校の科目を指導する例は少ないと聞いており、御提案の趣旨にそのまま対応することは難しいと考えているが、御意見として承る。

### 【県教委】

- ・ 6・3・3 制については、国でも話題になっているが、その見直しまで踏み込める状況にはないと認識している。

### 【住田町 参加者】

- ・ 県立高等学校新整備計画（後期計画）における統合の基準に、「当該分校に進学した者のうち、分校所在地の小中学校からの進学者の割合が半数以下となる状況が 2 年続いた場合には、原則として翌年度から募集停止とし、統合することとする。」とあるが、今年度の住田高校への入学者の 4 分の 3 は町外からである。この基準を適用すると統合の対象となるので十分検討していただきたい。

（次頁に続く）

- ・ 中学生のアンケートでは、通学時間について1時間までを許容範囲と考えているということであったが、実際に送迎しているのは保護者という実態がある。保護者の意見を聞くことも必要ではないかと感じている。

#### 【県教委】

- ・ 統合の基準については、今回の再編計画では前計画での基準をそのまま当てはめるものではないと考えている。
- ・ 保護者の負担について、当地区では中学生のアンケート結果で親が自家用車で送迎できる範囲までが30%を超えており、全県に比べ高く公共交通機関による通学が難しい地域であることは認識している。高校は義務教育ではないため、全県的な通学費の助成の対応は難しい。就学に係る奨学金制度を活用していただくとか、沿岸部であればいわての学び希望基金等を活用していただきたいと考えている。

#### 【大船渡市 参加者】

- ・ ブロック内に設置された学科については可能な限り維持できるような再編を基本として検討を進めるとあるが、今後の中学校卒業生数の推移を見ると大きく減ることが予想されている。このような状況でブロック内に各学科を維持できるのか。学区の見直しは考えていないのか。

#### 【県教委】

- ・ 学区については、全県1区がよいとか、現状を維持してほしいといった様々な御意見をいただいているところである。学区の見直しについては、平成28年度入試から推薦入試の方法を一部見直したこと等を踏まえ、今後の中学生の志望動向等を確認していく必要があることから、高校再編とは別な形で検討していきたいと考えている。

#### 【県教委】

- ・ 学区は普通科に定めているものであり、その見直しについては先ほど回答したような様々な意見があるところ。ブロックは県立高校の配置や学級数調整等を検討する際の地区割りであり、県が設定した広域生活圏を基本として設定したものである。

#### 【大船渡市 参加者】

- ・ 各高校の魅力を中学生に知ってもらうために、中学校と高校の連携を強めて欲しい。そうすることにより、地域の高校へ進学する生徒が増えるのではないかと。

#### 【県教委】

- ・ 高校の情報発信が足りないのではないかと御意見はいただいているところである。各高校では、夏季休業中に一日体験入学を実施したり、中学校の進路説明会に出席して各高校の特色について、詳しく説明を行っているところである。また、各高校では文化祭等で学校の特色等のPRはしているところではあるが、高校からの情報発信がうまく伝わっていないという御指摘と思う。今後、各高校の情報発信については、さらに工夫していきたい。

#### 【住田町 参加者】

- ・ 震災前の意見交換会等で示された内容に比べかなり地域に配慮していると感じている。本日の意見交換会でも通学に対する支援等が示されており、機械的な高校再編でないという提案に感謝している。
- ・ 生徒数は減少していくため、何らかの統合や学級減はやむを得ないこととは思うが、地域性に十分配慮した再編計画を示してほしい。住田町は他の地区に比較的に出やすい地域でもある。中高との連携を強めながら地域の高校を残していければと感じている。

(次頁に続く)

#### 【県教委】

- ・ 通学の支援については、高校は義務教育ではないということもあり、全県的な形で支援を行うことは困難であることから、そういった場合、既存の奨学金の活用が考えられるとの趣旨で申し上げたもの。新たに行う通学支援については、統合に伴い公共交通機関による通学が困難となる場合、期間を設けて必要な支援を検討していくものである。
- ・ 中高の連携については、学習面の連携は時間をかけていく必要があると思うが、地域活動を通じた連携や中学生が進路選択にあたって高校がどのような活動を行っているか等の情報発信に係る連携に努めていきたい。

#### 【陸前高田市 参加者】

- ・ 高校再編は地方創生や人口減少対策で各自治体に取り組んでいる中、ブレーキをかけている感じがする。県教委は地方創生等の取り組みとどう整合性を図ろうとしているのか伺いたい。

#### 【県教委】

- ・ 高校再編は当面の生徒数の減少にどう対応していくかということで検討しているものである。当然、今後地方創生の成果等で人口が増えていけば、その都度見直し対応していくものである。

#### 【住田町 参加者】

- ・ 今までの高校再編は、高校を減らすことで評価されていた。高校が減ることで、これから高校の教員になりたいという児童生徒が減っていくのでないか。教育政策を考えるときに、こういったことにも配慮して考えていただきたい。
- ・ 住田高校は広く他校と交流して頑張っている。高校の特色を出す意味でも、例えば、新しい中高連携のモデルを気仙ブロックで検討してもよいのではないか。

#### 【県教委】

- ・ 御意見として承る。

#### 【大船渡市 参加者】

- ・ 今後、生徒数が減っていき高校が小規模化していった場合、教員の配置が限られることにより、履修できない科目が出てきたりして教育の質が維持できなくなることが考えられるのではないか。また、専門高校では、資格取得ができなくなるということが出てくるのではないか。この点についての県教委の考えを伺いたい。

#### 【県教委】

- ・ 御指摘のような状況がないように、一定の学校規模を有した高校を維持していかなければならないと考えている。小規模校については、教員の配置が限られるといったデメリットを解消する方法として、教員の相互派遣やICTを活用した遠隔授業の研究も始めているところである。専門高校（学科）については、資格取得を含めた専門性は確保されている。

#### 【大船渡市 参加者】

- ・ 現状では普通科と専門学科が分かれている高校が多い。普通科だけではなかなか魅力を出しづらいのではないか。校舎制にして普通科だけではなく多くの学科を持つことで、高校の魅力が高まるのではないか。また、教員の数も確保されることから様々な面でメリットがあると思う。

(次頁に続く)

**【県教委】**

- ・ 校舎制は、学校の規模が小さくなることが想定される場合、統合することにより一定の学校規模を確保できるというメリットがある。例えば、普通科と専門学科の校舎制では、教員の数が確保されることにより選択科目を多く設定出来たり、お互いの進路の幅が広がるということが期待できる。

**【住田町 参加者】**

- ・ 子どもが住田高校に進学した。中学生のアンケートでもわかるように中学生の段階ではまだ、将来の進路目標がはっきりしていない場合が多い。学校規模による違い、普通高校や専門高校といった垣根を超えて、高校全体で魅力づくりに取り組んでもらいたい。